

3年A組 社会科 単元設計・学習指導案

指導者 江角 紀行

1 日時（場所） 令和5年10月30日（月） 13:50～14:40（AL推進教室）

2 教科領域別研究テーマ

主権者意識を持ってよりよい社会や自分の姿を構想する学習展開の工夫

3 研究テーマ設定の理由

これからの社会は未曾有の事象の連続で、より VUCA の時代になると考えられている。そのような社会においては、「激しく変化する社会に適応すること」はもちろん必要だが、それだけでは社会そのものを「よりよく」していくことは難しい。そこで求められるのは、「激しい変化に積極的に向き合い、よりよい社会や自分の姿を構想し、創り出していくこと」である。そして、そのような社会を創り出していく際の資質・能力の鍵となる概念として「エージェンシー」が示されている。エージェンシーは、現代社会の諸課題について、「自ら考え、主体的に行動し、責任を持って社会変革を実現していく力」と捉えることができる。これは、多様な他者と連携、協働してよりよい社会の実現のために課題解決を行う際に不可欠なものである。それを身に付け、高めるためには、自分たちが考えたことが実際の社会の改善や変革につながるということに気付かせる学習を展開することが重要である。また、社会科は現実の社会的事象を扱うことのできる教科である。その特性を生かし、自己の意見が社会に発信されたり、社会とつながりを感じたりして課題解決に貢献できるという自覚を高める学習を積み重ねることが大切である。そして、主権者としての意識を涵養していくとともに、「社会変革を実現していく力」の育成に資すると考え、本研究テーマを設定した。

4 単元設計（単元名：地方自治）

(1) 単元目標

- 地方自治の基本的な考え方について理解することができる。その際、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解することができる。 「知識及び技能」
- 対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、地方自治の民主政治の推進と住民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現することができる。 「思考力、判断力、表現力等」
- 民主政治の推進と地方自治について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地方自治の基本的な考え方について理解している。その際、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解している。	対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、地方自治の民主政治の推進と、住民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	民主政治の推進と地方自治について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

(3) 指導計画（全9時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	評価規準（評価方法）
一次	1 ・学習への関心を高め、見通しを持たせるために、長野市の公園廃止の資料を提示したり、単元を貫く学習課題への仮説を立てさせたりする。	態		・単元を貫く学習課題を自分ごととして捉え、既習知識や経験を活用して、仮説を立て学習への見通しを持とうとしている。 (ワークシート)
	2 ・よりよい地方自治の実現には地域住民の主体的な参加が必要であることを理解させるため、地域の特色ある取組を基に地域住	知		・よりよい地方自治を実現するためには、民主主義の考えに基づく地域住民の主体的な参加が必要であることを理解している。 (ワークシート)

一次		民の関わり方を追究させる。			
	3	・地方公共団体における首長と地方議会の役割について理解させるために、具体的な事例を基にそれぞれの役割を追究させる。	知		・地方公共団体における首長と地方議会の役割について理解している。（ワークシート）
	4	・国と地方公共団体の関係について、地方財政のしくみの観点から理解させるために、愛媛県や松山市の財政を参考にまとめさせる。	知	○	・国と地方公共団体の関係について、地方財政のしくみの観点から理解している。（ワークシート） （支援）東京都や大阪府などの大都市と愛媛県をはじめとする地方都市での自主財源や依存財源の割合に着目させる。
	5	・よりよい地域社会をつくる上で住民による主体的な政治参加が大切であることに気付かせるために、地域住民、NPO、ボランティアの立場から実際の取組を追究させる。	思		・よりよい地域社会をつくる上で大切なことについて、地域住民による主体的な政治参加に着目して説明している。（ワークシート）
	6	・長野市の公園廃止における合意形成の問題点を多面的・多角的に把握させるために、多様な立場から考察させる。	思		・長野市の公園廃止の事例から、多面的・多角的に合意形成における問題点を把握している。（ワークシート）
二次	7	・合意形成における問題点や解決策について現代社会の見方・考え方に着目させて考察・構想させるために、シンキングツールやトゥールミン図式を活用して意見をまとめさせる。	思	○	・合意形成における最も重大な問題点や解決策について、現代社会の見方・考え方に着目して論理的に説明している。（ワークシート） （支援）既習内容である民主主義や個人の尊重などの言葉の意味をもう一度確認し、問題点の発見や解決策の提案を促す。
	8 本時	・現代社会の見方・考え方に着目して、よりよい合意形成の在り方について考察させるために、ロールプレイによる模擬住民説明会で議論させる。	態	○	・現代社会の見方・考え方に着目して、よりよい合意形成の在り方について考察し続けようとしている。（デジタル版 OPPA） （支援）合意形成に向けた議論を通して、自分の意見の良かった点や不足していた点に気付かせる。
	9	・本単元で学んだことの意味を実感し学習への意欲を高めさせるために、パフォーマンス課題や単元を貫く学習課題への最終意見、成果と課題を記述させる。	思 態	○ ○	・現代社会の見方・考え方を働かせながら、よりよい合意形成や地方自治の在り方について多面的・多角的に考察し表現している。（パフォーマンス課題） （支援）これまでの学習を振り返らせ、住民の納得を得たり、地方自治における民主政治を発展させたりするための方法を問い掛ける。 ・これまでの学習を振り返り、単元を貫く学習課題への最終意見や成果と課題を主体的に述べようとしている。（デジタル版 OPPA） （支援）デジタル版 OPPA 内の記述に教師が価値付けして学習の成果に気付かせる。

(4) パフォーマンス課題

あなたは長野市の市長を務めています。ある公民館を訪れたときに、住民から「自宅の隣にある公園の騒音がひどくて困っている。何度も市役所の担当部署に相談したが解決に至らない。どうかしてもらいたい。」と訴えを受けました。あなたは、市長としてどのように対応しますか。ただし、「訴えた住民」「区長」「公園を利用する子どもや保護者」「市役所の担当者」への対応をそれぞれ考えること。

5 本単元と研究主題との関わり

(1) 生徒について

本学級の生徒 31 名（男子 16 名，女子 15 名）は，毎時間の学習課題に対して，諸資料を活用して課題を追究したり，仲間と協働しながら解決したりするなど，意欲的に取り組んでいる。その一方で，事前アンケートの「自分の国や地域の課題解決に関わろうと思うか」の項目で「とても思う」「まあまあ思う」と回答した生徒は 46%であった。また，「自分で国や地域を変えられると思うか」については，「あまり思わない」「思わない」が全体の 29%，「どちらとも言えない」が 46%という結果であった。その主な理由として，「社会にある課題は自分にとって遠い存在であること」や「自分たちの意見や行動では課題解決できない」などが挙げられていた。これらの結果は，生徒にとって社会にある諸問題の解決は他人事であり，行動しても意味がないといった気持ちの現れであると考ええる。そのため，社会課題が現在や将来の自分にどのような影響を及ぼすか考察させたり，同世代の社会参画の成功例を提示して自信を持たせたりして主権者意識の涵養を図りたい。

(2) 単元について

本単元は，中項目「(2) 民主政治と政治参加」の「地方自治」に関する内容を取り扱う。単元を貫く学習課題「地方自治において，よりよい『民主主義の学校』を実現するために大切なことは何か」を設定し，その課題を追究したり解決したりする活動を通して，地方自治や我が国の民主政治の発展に寄与しようとする自覚や住民としての自治意識の基礎を育成することが主なねらいである。本実践では，地方公共団体の政治のしくみや住民の権利や義務などの理解を基に，長野市の公園廃止の事例を取り上げ，合意形成における多様な問題点を追究し，よりよい合意形成の方法を構想していく。公園を巡る問題は生徒にとっても身近であり，今後も関わる可能性が高い事象である。また，様々な立場の多様な願いがあり，実社会でも合意形成が容易ではない。そのため，身近な公園の事例を基に，よりよい合意形成や地域づくりに向けて，問題点を追究したり解決策を構想したりすることは，地域住民の一員としての自覚や積極的に社会参加していこうとする態度の育成に資するものであり，主権者教育の中心となる単元であると考ええる。

(3) 指導について

エージェンシー育成のためには，生徒の主体性が一層重視されなければならない。梅津(2022)は，「子どもの学習過程への能動的関与」を促進する要件として，「感情」「認知」「行動」「協働」の四つを挙げている。本実践では，その中の「認知」に関する「自己調整」，「協働」に関する「仲間や教師との自律的な関わり合いや協力」の二つの視点からアプローチを図る。

ア 「自己調整」の促進

アメリカの教育心理学者ジーマーマンは，子どもの自己調整を「計画→遂行・意思的制御→自己内省」の三段階の循環する過程として捉え説明している。この過程の充実を図るため，「計画」の段階で「単元を貫く学習課題」の解に至るための予想を立て，他者との対話を通じて仮説を設定させる。「遂行・意思的制御」の段階では，自己と集団の往還を組み込んだ活動から，自己の考えがどのように変化し，その変化に影響を与えた考え方は何か，不足していた考え方は何かなどを記述させる。最後に，「自己内省」の段階で，学習プロセス全体を俯瞰できるデジタル版 OPPA (One Page Portfolio Assessment) を活用して，客観的に自身の成果や課題を根拠と共に把握したり，変容を自覚したりして，次単元に学びをつなげてさせていく。

イ 「仲間や教師との自律的な関わり合いや協力」の場面設定

三宮(2022)は，自己調整と関係の深い「メタ認知」を促す活動として，論理的な意見をつくらせることや他者との討論などを示唆している。その理由は，前者については，説得力を持たせるためには自分の意見を他者の視点で捉えることが必要であるため，後者については，他者の意見に触れることで自分の意見が単なる思い込みや印象論に立脚する危ういものであることに気付けるからとしている。さらに，三宮は「失敗事例」を分析させることも「メタ認知」を促す活動として有効としている。そこで，長野市の事例を取り上げ，現代社会の見方・考え方に着目しながらその問題点を分析させる。また，ツールミン図式を用いて論理的で分かりやすい意見や論点の明確化を支援したり，ロールプレイによる模擬住民説明会で仲間と協働しながら積極的に合意形成を図らせたりして，生徒の主体性を高め，意見を複眼的にしていく。

6 本時の指導（8／9時間）

(1) 主題 長野市の公園廃止の事例を通じて、よりよい合意形成の方法を考え続けよう。

(2) ねらい

○現代社会の見方・考え方に着目して、よりよい合意形成の方法について考察している。

(3) 展開

学習活動 (形態)	時間	○教師の働きかけ ・ 予想される生徒の反応	○指導の工夫 ◎ 評価規準（評価方法）
1 これまでの活動と本日の活動の流れを確認する。（一斉）	5	○これまでの活動と本日の授業の流れを確認しよう。 ・長野市の事例の問題点を見付けたり、立場で分類したりした。 ・同じ立場の仲間での解決策について意見交換をした。	○思考の方向付けのため、学習の振り返りと本時の流れを説明する。
		よりよい合意を得るために大切なことは何か。	
2 公園廃止の事例の解決策を発表し質疑応答する。	5	○みんなが納得できる解決策を発表しよう。 【苦情住民】住民の多くが参加して公園について意見を出し合う場を設けてもらうよう市役所に依頼する。 【子ども】公園で今後も遊びたいので、声の大きさや他人の敷地には入らないことなど、相手のことを考えてマナーを守る。 【児童センター】送迎車のアイドリングを注意する職員を配置したり、人数や活動内容を工夫したりして近隣住民に配慮する。 【地域住民】苦情住民の悩みを聞いたり、日頃から住民同士のコミュニケーションをとったりして、町内で解決していく。 【地方自治体】苦情住民の悩みや利用者の声をしっかりと聞き、意見を調整したり、納得いくまで丁寧に説明したりし続ける。	○論理的な思考を促すために、現代社会の見方・考え方に着目させたり、ツール・ミン図式を活用させたりして発表や質疑応答をさせる。
本時は1班のみ (小集団→全体)			
3 それぞれの立場で考察する。 (小集団→全体)	7	○なぜそれぞれの立場の人は「解決策」を実行できなかったのか。 ・苦情住民の苦しみを理解していなかった。 ・利用者が多すぎて限られた職員では限界があった。	○それぞれの立場への理解を進めるために、「解決策」が実行できなかった理由を考察させる。
4 解決策について、異なる視点から再考する。 (小集団→全体)	8	○解決策について、「実現可能性」・「効果」・「新たな問題の発生」の視点から考察しよう。 ・相手のことを考えてマナーを守ると発表しているが、ルールもないため効果が薄いのではないか。 ・町内で解決というのが今回も無理だったので実現困難だと思う。	○より公正な判断を促すために、「実現可能性」・「効果」・「新たな問題の発生」の視点から再考させる。
5 ゲストティーチャーの話を聞く。 (一斉)	5	○ゲストティーチャーの話から、更に考えを広げよう。 ・音を出す側の節度、聞かされる側の寛容さ、そして両者がコミュニケーションを構築していくことが大切。 ・第三者の立場の人が意見を調整し解決していくことが大切。	○新たな気づきを獲得させるために、専門家の立場から話を聞かせる。
6 よりよい合意形成の方法を考え自分の提案した解決策について評価し、得点と理由を記入する。 (個人→全体)	20	○よりよい合意を得るために大切なことは何か。また、自分の提案した解決策を自己評価しよう。 ・30点：苦情住民のことを考えた解決策ではあったが、子どもや地域住民の視点が薄く、公正さに欠けているから。 ・70点：苦情住民や子ども、地域住民なども納得できる解決策であったが、実現できるか疑問が残るから。	○メタ認知や自己調整の促進のため、自分の解決策の評価と理由を考えさせる。 ◎現代社会の見方・考え方に着目して、自分の解決策の成果や課題を把握し、よりよい合意形成の在り方について考察し続けようとしている。 (デジタル版 OPPA)
授業研究の視点		○現代社会の見方・考え方に着目して、よりよい合意形成の在り方について考察し続ける活動は、主体的に学習に取り組む態度やエージェンシーを育成するうえで有効か。	

